

実を結ぶ畑

シリーズ～神の国～

2013/3/17

ルカによる福音書8章4～15節

大勢の群衆が集まり、方々の町から人々がそばに来たので、イエスはたとえを用いてお話しになった。

「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。ほかの種は石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。ほかの種は茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しつぶさってしまった。また、ほかの種は良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」イエスはこのように話して、「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声で言われた。

弟子たちは、このたとえはどんな意味かと尋ねた。イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密を悟ることが許されているが、他の人々にはたとえを用いて話すのだ。それは、『彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』ようになるためである。」

「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。道端のものとは、御言葉を聞くが、信じて救われることのないように、後から悪魔が来て、その心から御言葉を奪い去る人たちである。石地のものとは、御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じても、試練に遭うと身を引いてしまう人たちのことである。そして、茨の中に落ちたのは、御言葉を聞くが、途中で人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれて、実が熟するまでに至らない人たちである。良い土地に落ちたのは、立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ人たちである。」

イスラエルの農業（聖書時代）

* 水は雨頼み

- * 大きな河や湖が少ないので、畑に水を撒くことが難しい
- * 雨期（11～4月）に種まきから刈り入れまで行う

* 収穫は土地頼み

- * 肥沃な地域もあったが、全般的には乾燥して耕作の難しい土地であった
- * 当時の農具では深く耕すことはできなかった

* 種蒔きは風頼み

- * ある程度耕した畑に、種を「放り投げる」方法で蒔いた
- * 蒔いた後で土をかぶせた

4種類の土地

道ばた

- 人に踏みつけられ、鳥に食べられる

石地

- 芽は出たが、水気がないので枯れた

茨の中

- 茨に押しつぶされる

良い土地

- 百倍の実を結ぶ

このたとえの前提

- * 種（御言葉）には実を結ぶ力が備わっている
 - * しかも実りは百倍！
- * しかし、育つ環境が整っていなければ、実を結ぶことはできない
 - * 御言葉の結実を妨害するものがたくさんある
- * 実を結ぶとは？
 - * 新たに生み出される弟子（クリスチャン）
 - * 霊の結ぶ実（個人の人格的成長）
 - * 人生の収穫

なぜ「たとえ」で話すのか

- * イエス様は「彼らが見ても見えず、聞いても理解できない』ようになるためである」と言われた。
 - * 当時のユダヤ教の教師は「たとえ」を使って教えることが一般的だったが…
- * わざと分からないようにされたのか？
- * たとえの意味を探ろうとする思いのある人だけが、知ることができるように
 - * 受け手側の意志がなければ、神の国の真理は獲得できない

あなたはどのタイプ？

道ばた

- 悪魔が御言葉を奪い去る(興味・関心がない)

石地

- しばらくは信じるが試練があると身をひく

種 御言葉

茨の中

- 人生の思い煩いや富や快樂に覆いふさがれてしまう

良い土地

- 立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ

実を結ぶ畑になるために

* 日本は『沼』

* 遠藤周作はその作品『沈黙』の中で、日本の精神的土壌は**神の存在、絶対的な存在が根付かないすべてのものを腐らせていく沼**だと言った

* 「立派な善い心で御言葉を聞き、よく守り、忍耐して実を結ぶ」

* 素直に聞き、実行し、待ち望む ← **簡単ではない!**

* 神がこの国を「良い土地」に変えて下さるよう祈ろう!



スマイル農園の落花生（ピーナッツ）



スマイル農園の落花生（ピーナッツ）